



◆子どもの身長伸び「限界」 男女とも全年齢ピーク時を下回る

文部科学省が発表した2010年度学校保健統計調査速報によると、男子の平均身長が5～17歳の全年齢で前年度を下回るか、横ばいだったことが分った。伸びがなかったのは現行方式で調査を始めた1948年度以降初めてで、女子も伸びたのは13歳と17歳だけで、ほかは横ばいか減少だった。

栄養状態の改善に伴い、伸び続けてきた子どもの身長は97～01年度ごろにピークを迎え、その後は横ばい傾向だった。今年度は男女とも初めて全年齢でピーク時を下回っており、文部科学省は「伸びはほぼ限界を迎えた」と分析している。

男子の身長は7～12歳、14、17歳で前年度より0.1㌢減少。15歳は0.3㌢減り、他の年齢は横ばいだった。

女子は13歳と17歳で0.1㌢伸び、6、7、9、12、16歳で横ばいだったほかは、0.1～0.2㌢減少した。

ただ、親の世代に当たる30年前（80年度）の子どもの身長に比べると、13歳男子で2.8㌢高い159.7㌢、女子は10歳で1.9㌢高い140.2㌢になっている。

子どもの発育に詳しい専門家によると、「今の子どもは有り余るほどの栄養を摂取するようになっている。身長の伸びは、日本人の子どもとして限界まで達したと考えるのが自然だ」と話している。（12／10）

◆温室効果ガス「京都」達成の水準に

環境省が発表した09年度の温室効果ガス国内排出量の速報値によると、金融危機（08年秋）後の景気後退で企業の生産活動が落ち込んだ影響で、前年度比5.7%減の12億900万ト（CO₂換算）と、京都議定書で約束した「マイナス6%」を達成できる水準に収まったことが分った。しかし民間のシンクタンクは、10年度は景気回復や夏も猛暑などで、排出量が増えたと予測している。

09年度は京都議定書の目標期間の2年目にあたり、日本は同期間の温室効果ガス排出量を、90年度より毎年平均で6%減らす義務がある。ただし、森林によるCO₂吸収分や海外から購入した排出権を削減とみなせるため、実際の排出量は同0.6%減（12億5400万ト）でも目標が達成でき、09年度の速報値はこれをクリアした。

排出量のうち、産業や家庭での燃料・電気使用による「エネルギー起源」は前年度比5.6%減の10億7500万トで、特に工場など産業部門が同7.9%減と急減し、90年度比では19.9%減となり、オフィスなど業務部門も前年度比6.6%減らした。（12／28）

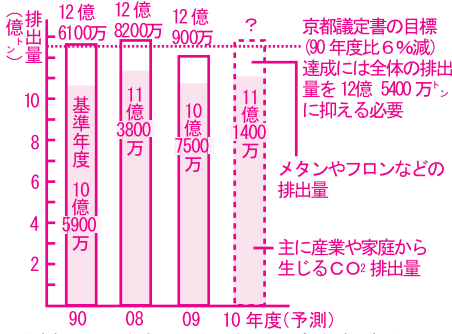
◆生物多様性保全活動「支援策なし」8割

環境省の調べによると、外来生物の駆除や野生動植物の保護など、地域の生物多様性を保全する活動への支援策がない市区町村は8割に上ることが分かった。3年前に施行した生物多様性基本法に基づく「生物多様性地域戦略」を定めている自治体も、都道府県・市町村合わせて12自治体（0.6%）にとどまり、生物多様性の保全が現場に浸透していない現状を裏付けた。

調査は、全国の1750の市区町村と各都道府県を対象に、生物多様性保全の体制や支援策などについてのアンケートを実施し、6割の地方公共団体から回答があった。

支援が行き届かない理由としては「厳しい財政状況、現人員で取り組むのは難しい。国の持続的な支援が必要」「地域の自然環境を把握する余裕がない」「必要性を感じない」など、資金、人材とも不足している地方の実態が浮かび上がった。一方、都道府県は回答した27件中21件（8割）で支援策があり、財政支援やホームページで活動情報の提供などを行っていた。検討会の委員からは「生物多様性という言葉に対し、国と現場のギャップが相当ある。これをどう埋めていくかが大事」「生物多様性保全の前に、まずは有害鳥獣の捕獲といった明確な狙いを示し、住民をその気にさせるための仕掛けが必要だ」といった意見が相次いだ。（1／20）

温室効果ガス排出量の推移



※環境省調べ。10年度の予測は日本エネルギー経済研究所による

達成できる水準に収まったことが分った。しかし民間のシンクタンクは、10年度は景気回復や夏も猛暑などで、排出量が増えたと予測している。

09年度は京都議定書の目標期間の2年目にあたり、日本は同期間の温室効果ガス排出量を、90年度より毎年平均で6%減らす義務がある。ただし、森林によるCO₂吸収分や海外から購入した排出権を削減とみなせるため、実際の排出量は同0.6%減（12億5400万ト）でも目標が達成でき、09年度の速報値はこれをクリアした。

排出量のうち、産業や家庭での燃料・電気使用による「エネルギー起源」は前年度比5.6%減の10億7500万トで、特に工場など産業部門が同7.9%減と急減し、90年度比では19.9%減となり、オフィスなど業務部門も前年度比6.6%減らした。（12／28）

生物多様性という言葉に対し、国と現場のギャップが相当ある。これをどう埋めていくかが大事」「生物多様性保全の前に、まずは有害鳥獣の捕獲といった明確な狙いを示し、住民をその気にさせるための仕掛けが必要だ」といった意見が相次いだ。（1／20）

※複数回答

七つのブロックに分かれて活動を行っている。出前講座グループは、各ブロックから一人の推進役を選出し、昨年八月より会合を重ねてきた。初年である今年度は、出前講座に必要なテキストやチラシ、



教材について議論する推進役

出前講座グループの活動本格化 脱温暖化の全市民啓発に挑戦

福山市には、八十の学区公衛協があり、七つのブロックに分かれて活動を行っている。出前講座グループは、各ブロックから一人の推進役を選出し、昨年八月より会合を重ねてきた。初年である今年度は、出前講座を行う計画である。

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

平成22年度公衛協ブロック会議

公衛協ブロック会議を次のとおり開催いたします。お申込みや詳細に関するご質問等は各市町公衛協事務局へお問い合わせください。

■主な内容

- 平成23年度地域活動支援センター事業計画について
- 平成23年度全県共通事業重点メニューについて（新規事業含む）
- 平成23年度健康感謝募金事業のすすめ方
- 事業に向けた意向調査 ほか

■日時・会場

※全会場とも10:30～15:00を予定。

- 福山・尾三ブロック
3月15日（火）：環境保健協会東部支所3階大会議室（福山市）
- 北部ブロック
3月16日（水）：三次市文化会館2階大会議室（三次市）
- 西部・呉ブロック
3月17日（木）：広島県公衆衛生会館6階講堂（広島市）

「企業の生物多様性保全セミナー」参加者募集

私たちの暮らしは、生物多様性から得られる生態系サービスに大きく依存しています。しかし、生態系サービスは人間の経済的な活動によって大きく損なわれ、生物多様性の保全と持続的な利用は、民間事業者の参画なしでは実現できないと考えられるようになりました。

本セミナーでは、民間事業者の皆様へ、生物多様性保全とは何か？どのように取り組めば良いのか？という視点で、さまざまな立場の方に講演をしていただきます。

今後、事業者の方々が環境経営を行う上で、重要なヒントを得ることができると思いますので、是非ご参加ください。

日時：平成23年3月15日（火）13:00～16:40（受付12:00～）

※参加費無料

場所：鯉城会館（広島県民文化センター）広島市中区大手町1丁目5-3

主催：（財）広島県環境保健協会

後援：環境省中国四国地方環境事務所、広島県、中国新聞社、株式会社中国放送（RCC）

講師：広島大学大学院 教授 中越信和氏、環境省自然環境局生物多様性地球戦略企画室 室長補佐 鈴木渉氏 中国電力㈱ 広報・環境部門 環境部長 西田哲也氏、㈱中国放送 ISO事務局長・環境担当 河本良子氏

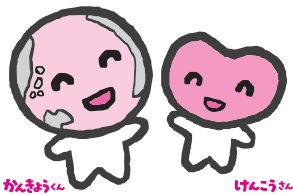
【問合せ】（財）広島県環境保健協会 TEL 082-293-0163（担当 空本・森） Email：baio@kanhokyo.or.jp

当会HPの「セミナー・講演会」に詳細内容を掲載しております。「かんほきょう」で検索してください。

健康感謝募金 ～地区衛生組織活動資金募集～

市町別一覧表
（平成23年1月末現在）

健康感謝募金
総額
60,049,571円



かんきょう

けんこう

健康感謝募金は、昭和35年から実施し、今年度で51回目を迎えます。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として環境保全や保健衛生活動に役立てられています。

※この表は、1月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

福山市公衛協

福山市公衛協の環境部会では、新たに「出前講座グループ」を設け、推進委員による地球温暖化防止活動の啓発を行う出前講座を企画している。福山市民を対象に、三年後の二〇一三年三月末までに、千百の全町内会で出前講座を行う計画である。

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成

教材を作成し、これらのツールを共有化し、勉強会や研修会を通して、自己のレベルアップを図ることを目標としている。教材づくりは、すでに出前講座を開催している学区の推進役が指南しながら、初めて実施する推進役でも講師ができるようにと配慮された内容となっている。また、パソコンを使った出前講座を前提としており、教材は電子データ化され、USBメモリに保存して各ブロックに配布することで情報の共有化も図っている。今後、教材の改訂や新規作成